

第5回 議会活性化検討特別委員会 会議録

日 時 令和5年5月24日（水曜日） 午前9時59分 ～ 午前11時57分
場 所 白桦庁舎2階 全員協議会室

出席委員の氏名

委員長 戸匹 映二 副委員長 伊藤 淳
委員 川辺 隆 委員 匹田久美子 委員 内藤 康弘
委員 大塚 州章 委員 武生 博明

欠席委員の氏名

（ な し ）

オブザーバー

議長 梅田 徳男

説明のため出席した者の職氏名

（ な し ）

出席した事務局職員の職氏名

局長 林 昌英 次長 後藤 秀隆 主査 大井智香子 書記 足立 卓也

傍聴者

（ な し ）

会議に付した事件

1. 方針に基づく具体的な実施内容について
 2. その他
-

午前9時59分 開議

○委員長（戸匹映二）

ただいまから、第5回議会活性化検討特別委員会を開催いたします。前回から具体的に内容を詰めていくことになりましたので、引き続き具体的な中身について検討を進めたいと思います。よろしく申し上げます。

それでは御手元の次第と別紙資料を基に、事務局から説明を行います。最初に協議事項1「方針に基づく具体的な実施内容について」の(1)情報公開についてを事務局から説明をいただきたいと思います。

◎書記（足立卓也）

（ 配付資料に基づき説明 ）

◎局長（林 昌英）

補足説明ですが、別紙資料1ページの議案の賛否の件ですが、(1)市報掲載(案)につきましては、紙面が限られておりますので、このような形での掲載を考えています。(2)議会ホームページ掲載(案)につきましては、ホームページでは紙面の心配は必要ないので、全議案の掲載と、議決結果の内容や議決日、そういったものを掲載できるのではないかと考えています。

先ほど説明した除斥や体調不良等で欠席された場合の欠席につきましては、どういった方が除斥になるのかということも記載して、内容が分かるような形でホームページには全部載せたいと考えています。

2点目の視察報告の掲載についてですが、こちらは市報での掲載は難しいので、別紙資料のような内容でホームページ等にアップするイメージと捉えていただければ良いかと考えております。

○委員長（戸匹映二）

(1)情報公開について説明が終わりました。まず、市報掲載の案について、皆さんから御意見がありましたらお伺いしたいと思います。これはあくまで案ですので、掲載としてはスペース的にこれぐらいで、賛否のあったものだけ載せるという形をとっております。

◎局長（林 昌英）

賛否は分かれてないが退席した議員が居た場合も、賛否の中に入れてほうが良いのではないかと検討できるかと思えます。賛成も反対もないという意思表示の場合、退席しているので、賛否自体は分かれてないけれども、この中に退席者がいれば、この例のような形で載せたほうが良いかと考えております。なので、表題には「賛否が分かれた」ではなく「賛否等が分かれた」といった言い回しはどうかと考えています。

○委員（川辺 隆）

賛否については、議場での各議員の意思表示になります。定例会ごとに記載するという事ならば、その定例会に提出された議案の賛否については、退席、除籍、賛成及び反対を含めて、私は全て載せるべきではないかと思えます。賛否の分かれたものだけを掲載した場合、この議員はいつも反対をしていて、賛成は一切していないのかとなりかねない。議員の意思表示とすれば、全員賛成であるものも含めて、私は全て掲載したほうが良いと思えます。その代わり、市報その他広報紙に載せる場合は、各定例会の結果で良いと思えます。

○委員長（戸匹映二）

市報の場合は、年4回の定例会ごとに載せるということになっています。川辺委員がおつ

しゃったように、基本的には市報にも全部載せたいです。ホームページには全部載せますが、市報に載せる場合は紙面のスペースの問題があります。

○委員（川辺 隆）

本特別委員会において、市民への情報発信に関して、これまで何度か議論が行われてきました。その中で、市報でのページ数が限られているので、それを増やしてはどうかという意見もありました。委員長がおっしゃる全ての賛否を載せたいという意向であるならば、議員の意思表示を載せるスペースを取るために、市報を1ページ分追加することが、これからの発展につながると思います。

○委員長（戸匹映二）

もちろん、市報に全部載せるのがベストだと思いますが、市報のページ数を増やすかどうかというのは、執行部との調整も当然必要になってくると思います。あくまで市報に掲載できない部分の補完として、ホームページには全部載せるということです。別紙資料に載せているのはそういった案という形で、お示ししたということですから、市報も全部載せたほうが良いということも一つの考え方ではあります。

○委員（大塚州章）

川辺委員の意見に賛成です。ただ、ホームページは、全市民が見ることができない可能性があるもので、例えばケーブルテレビで、議案の賛否を全部載せるとか、できれば市報を1ページ追加していただきたいですが、予算の関係上出来ない場合は、ケーブルテレビ等で議案を流すことも可能だと思います。ケーブルテレビは、ほぼ全ての市民が加入しているので、議案の賛否は見るができるということも検討ができるかなというふうに思いましたので、提案をさせていただきたいと思います。

○委員長（戸匹映二）

確かにホームページだと、どれぐらいの人が見るのか、そういう課題はあるかとは思いますが。その辺りは執行部の協議という可能性はどうでしょうか。

◎局長（林 昌英）

市報につきましては、令和5年度の年間の計画について、見開き1ページで年4回という形で調整をさせていただいております。やはり全部を載せたほうが良いということであれば、予算の関係も出てきますので執行部との調整が必要になってくると思います。そこはしないといけないかなと思います。

先ほど言ったように議案の賛否が分かれなくても、全会一致でも全ての議案を掲載するというイメージでよろしいでしょうか。

○委員長（戸匹映二）

掲載方法ですが、少し工夫をして全員賛成であれば、その都度細かく分けて載せる必要はないと思います。例えば議案名を載せて、全会一致と一言書いただけという形で、スペースは省略する方法も考えられるかと思います。この部分につきましては、皆さんの御意見を踏まえて、また検討させていただくことにしたいと思います。

○議長（梅田徳男）

今後、極力早く進めるという意味で、川辺委員がおっしゃるように議案を全部載せたほうが良いということも当然あっていいことなのですが、市報担当の方の御意見も必要ですし、現実になされるかどうか分かりません。例えば、9月号から掲載したいけども9月号は紙面がとれないので、全員賛成の分は省くとか、そういう段階的な対応で極力早く皆さんにお知らせするという方法を考えるのも一つの方法として、そっちを優先してほしいと思います。この場で検討して、次の機会になるとまた延びてしまうのでそれを極力避けていただきたいと思います。

○委員（川辺 隆）

我々も、早く載せたいという議長のお気持ちのとおり早く載せたほうが良いと思います。なぜならこの件は、昨年度に他の議員からもあがっていました。現状の年4回の市報に見開き1ページしかなく、それにはほとんど写真は載っていません。それは、紙面の都合上これ以上文字を小さくし、情報量を増やすと非常に見にくくなるからだと思います。

いつから始められるのかという議論になるとするならば、早急に打合せは必要だと思います。やり方としては定例会後の市報に載せるのもあるし、翌々月の市報に1ページ取れるのかどうか議論も含めて一度揉んでもらいたいのですが。

○委員長（戸匹映二）

そうですね。今は、定例会後の翌々月号の市報に見開き1ページで年に4回しか掲載していません。それ以外の月については、市の広報と協議次第で原稿をはめ込むことはできると思います。ただ、そうなると基本的に、議会だよりの見開き1ページというのを、これを現状維持のままやったほうが、話を進めやすいのではないかと思います。例えば、今まで掲載していたが掲載できなくなったものについては、翌月の市報に掲載していいものがあるのかどうかという方向で進めていったほうが早く掲載はできると思います。これを3ページにしてくれ4ページにしてくれという交渉をこれからやると時間がかかると思います。

○委員（内藤康弘）

年4回の市報の中に、議会だよりに一括して出せばいいのではないかと思います。そのほうが構成はやりやすいと思います。校正の段階で、情報が毎月入ってくるのであれば、なかなか難しいかと思いますが、年に4回しかないことを考慮すれば、現状に更に1ページ増やすことで対応できると思います。

○委員（川辺 隆）

議会だよりに関しては、議長が、早急に手を打ったほうが良いという一つの方針を出していますので、委員長が今出た御意見を執行部の関係部署と擦り合わせをして、実現性があるのかないのかを含めて協議していただけたらと思います。

一点、この賛否に関わる掲載に関しては、市報その他の媒体を使つての、公表ということの決議をまずとっていただきたいのですが。

○委員長（戸匹映二）

その辺は皆さん御意見いかがですか。最初の案としては、賛否が分かれた分だけ載せるという案で一応出していましたけど、全会一致の分も市報にも載せていくという御意見でしたが。

○委員（川辺 隆）

市報にもではなく、まず賛否が分かれたものも基本的に載せるのかということですので、市報にはだけではありません。

○委員長（戸匹映二）

もちろんホームページは、最初から全部載せるという前提です。最初の案は、市報ではスペースが限られていたので、賛否が分かれたものだけを載せるという案だったのですが、全て載せたほうが良いのではないかとということですから、市報に関して全部載せるかどうかということですよ。

○委員（川辺 隆）

それならば、市報に関しては、議長、委員長、執行部等の打合せを今後続けて、内藤委員がおっしゃるように、1ページつくってそこに載せても、他の媒体は各委員会の活動もありますし、いろいろなものを載せられると思います。この場には、各常任委員長もおりますので情報は出せます。ホームページについては、事務局からの説明を聞くと、いつでも掲載できる状態になっていると思います。それならば議長がおっしゃるこの6月定例会でも、賛否の状況は、ホームページには掲載ができると思います。出席委員は全員、賛否に関しては全会一致だということで委員長から報告ありましたので、そういう方向で進めていただきたいのですけどどうでしょうか。

◎局長（林 昌英）

賛否の掲載については、この後議論していただく（3）広報機能の充実の①年4回の定例会後の市報掲載による議会だよりの掲載内容の部分と内容が重複する部分があり、基本的に賛否の件に関しては、掲載をしていくということで委員の皆様のご了解をいただいたということで、今後の掲載を議会だよりでどうするかということはこの後検討していくことになるかと思っています。

○委員長（戸匹映二）

賛否に関しては全て載せていくということで決めたいと思います。

それでは次に②視察報告の掲載についてです。別紙2にありましたような内容で他の議会では掲載しているところもあるということです。この中で各委員の所感という部分がありますがこれを載せるかどうか。視察に行った際に皆さんが提出する視察の報告書そのまま載せるという方法もありますがその辺りの御意見をお伺いしたいと思います。

○委員（内藤康弘）

行政視察の報告については、視察に行った委員全員の意見を集約して載せれば良いのではないかと思います。委員全員の意見を載せると情報量が多くなり難しいのではないかと

思います。

○委員長（戸匹映二）

内藤委員は各委員の所感は載せなくてもいいのではないかという御意見ですが、他の委員はいかがですか。

○委員（川辺 隆）

そもそも、各委員会の活動は、議案の審議も含めて、委員長報告として、各定例会で、その委員会に付託された内容に関して報告を上げております。私も内藤議員と同様に、委員会としての報告をするのであれば委員会としての報告をしていただきたい。個人の活動の報告をするのであれば個人の活動の媒体を使っていただきたい。あくまで、私たちが行うのは、議会の委員会としての報告を私は行うべきと思います。

1点、掲載する写真については、少し考えて選んだほうがいいのではないのかなというのがあります。

○委員長（戸匹映二）

写真の掲載に関しては、事務局が写真を撮る際に、少し配慮していただくということで対応よろしくお願いします。

写真自体を載せていくということ自体は問題ないですか。個人の報告書は載せるか載せないかこれはどうされますか。

○委員（大塚州章）

基本的には、私も委員長の総括をまとめて出せばいいかなと思います。ただ、提出しない人がいた場合、その対応は正副委員長と議長で協議をしてもらいたいです。いないと思うのですが、いた場合どうするか、提出しない人もいるのに総括に載せるというわけにはいかないということもあると思います。その辺りは一度話をさせていただきたいと思います。

○委員長（戸匹映二）

先ほど、報告書を提出する・しないという話がありましたけど、その辺りに関して事務局はどういった対応になりますか。

◎局長（林 昌英）

視察の報告に関してはこの後、議題に上がります(4)議員研修の①研修要領についてこちらでお示しする要領に、視察報告書を提出しなければならないということを規定しています。従って、それに基づき、視察報告書を出してない場合は、提出していただくよう促すことになるかと思います。

○委員長（戸匹映二）

これに関しては基本的に、報告書を必ず出すという前提で、ホームページに掲載する場合は、各委員の所感は載せなくていいということでもよろしいでしょうか。

（ 「異議なし」の声 ）

では、その方向で決めていきたいと思います。

○委員（川辺 隆）

事務局にお伺いするのですが、別紙2の行政視察報告書（案）について、議会運営委員会の視察に関しては、これも間に合えば議長がおっしゃるようにホームページには、6月定例会後に精査したら載せられますよね。

◎書記（足立卓也）

6月定例会後であれば、内容を精査して載せることは可能かと思います。精査の仕方については、事務局で精査した後、委員長に見ていただき、チェックして載せるという作業にはなるかなと思います。

○委員（川辺 隆）

他の市は既に、視察が始まっているところもあって、議長も何度か御挨拶をしたという話を聞いておりますが、我々はどうしても10月や11月に視察の予定を組みます。直近で行われた視察は議会運営委員会の視察になりますので、この視察報告を一つのテストケースとして、市民の反応等を見てもいいのかなと思うのですがいかがでしょうか。

○委員長（戸匹映二）

議会運営委員会の視察報告書に関して、試験的にホームページ載せてみるということについて皆様、その辺はいかがでしょうか。

（ 「異議なし」の声 ）

では、その準備を事務局はよろしくお願いします。

◎局長（林 昌英）

ホームページでの掲載はすぐにできると思います。1点、先例及び申合せの中に、市議会のホームページの掲載内容の規定があります。視察報告や意見交換会といったものは、随時アップしたほうがいいのかと考えています。その他にもゼミナール、交通安全運動、街頭啓発での募金活動等そういった活動を逐一ホームページで議員の活動、議会の活動というページをつくって、載せていくほうがいいのかと事務局としては考えています。視察についてもそれを別項目として視察の報告とするのか、委員会の活動という項目をつくってそこに委員会の活動として、例えば視察の報告や意見交換会を入れるのか、その辺の組立てをどういった形で紙面に上げるかということを考えないといけないかなと思っています。

○委員長（戸匹映二）

先例及び申合せの修正を、議会運営委員会かどこかに諮ってしないといけないということですか。

○委員（内藤康弘）

申し合せの規定を読み上げられますか。

◎局長（林 昌英）

議長あいさつ、傍聴の案内、市議会のしくみ、委員会、請願・陳情について、議員紹介、会議録検索、常任委員会の記録、会期日程及び議事日程、議案一覧、一般質問通告書、議決結果一覧、政策提言、議会改革・議会活性化、議会放送日程、行政視察の受入れ、議長交際

費、録画配信の18項目が規定されています。

○委員（川辺 隆）

御説明があった項目の中に、「委員会」と「議会活性化」がありました。それらに、拡大解釈で載せられるのかということが1点と、本来この申合せ事項は、議会運営委員会で話し合われて決めたのかそれとも代表者会議で決められたのか分かる方に御説明をいただきたいのですが。

○議長（梅田徳男）

先例及び申し合せの第10章補則の部分に、「申し合わせは、議会運営委員会又は会派代表者会議で協議し、議長が決定する」となっています。

○委員（内藤康弘）

先ほど、川辺委員がおっしゃった拡大解釈で滑り込ませられるような規定があればそこに滑り込ませれば良いのではないのでしょうか。

○委員長（戸匹映二）

そうですね。ただそれを誰が決めるのかということになると、やはり代表者会議で決める必要があるということですね。

○委員（大塚州章）

本委員会が代表者会議に提案をして、議長が最後に決める話だと思います。本委員会から提案したということで良いのではないのでしょうか。

◎局長（林 昌英）

そうですね。今の考えでよろしいかなと思います。

○委員長（戸匹映二）

では、そのような形で代表者会議に提案をさせていただくことにしたいと思います。

続きまして（2）市民参加の機会の充実について、事務局の説明をお願いします。

◎書記（足立卓也）

（ 配付資料に基づき説明 ）

○委員長（戸匹映二）

これについては、各常任委員会で、随分前から御検討されていると思います。各常任委員会委員長をされている委員から御説明をお願いします。

○委員（川辺 隆）

教育民生委員会では、市民への対話型ということで小・中学生に向けてどういう意見交換ができるのかという議論を続けて参りました。先週、本年度第1回目の部会を開いたのですが意見が割れ、結果が固まっていません。議員の委員会活動に、執行部の負担がどれくらいかかるのかという議員からの意見や、対象を小学生にするのか中学生にするのかという議論も出ています。また、これが学生ということになりますと、年間スケジュールの中のどこに組み込んでいけるのかという話も出ています。早速、今年度第2回目の部会を開いて意見

聴取をします。何とかこの6月定例会の最終日までには、本特別委員会でも本委員会の活動報告ができるように尽力してまいります。

○委員（内藤康弘）

建設産業委員会は、部会のテーマを「食文化創造都市」に決めて活動しています。意見交換会については、白杵高校のユネスコ部と、この6月定例会中に日程は確保しております。ただ、高校生ということで、いろいろと学校事業等がございますので、ユネスコ部の希望日を優先して開催したいと思っております。どこでやるかといいますと、学校側の御意見で、市議会の議場等を見学したいという御意向もあるようです。ですから、これは私の独断と偏見ですが、議場でやっても良いのかなというようなことを思っております。日程は未定ですが、建設産業委員はそういった方向で検討しているところでございます。

○副委員長（伊藤 淳）

総務委員会です。予定している対象団体は市内18か所の地域振興協議会です。これは大塚委員が総務委員長をされていた一昨年に、既に1度回っております。今回2回目ということで、引き続き、地域振興協議会対象としてまいりたいと考えています。また、テーマにつきましても、「現状と課題」としまして、各団体の現状と課題を聞いてまいりたいと考えています。

最終的には、現状と課題に対し、対応できるような案を、前回と同様に執行部に対して要望としてまとめていくところまでいきたいと思っております。

いつやるか、また、テーマをどうするかとかいう話合いにつきましては令和5年3月定例会の総務委員会の部会で話をしまして、6月定例会中に、一度部会でこういった要望・様式で、各振興協議会に提出して良いかというところを、私と事務局でまとめ、6月中に各18振興協議会に要請の文書を出し、返答いただいたものをもって、7月後半から各18地区を回り、前回同様12月定例会に提案したいと考えております。

開催時期につきましては、18地区それぞれ7月後半から1か所ずつ始まって、9月又は10月ぐらいまでに18か所回り終えたいと考えています。

○委員（川辺 隆）

各委員の報告を初めてお聞きしたのですが、建設産業委員会と教育民生委員会の内容が少し重複しているような感じがするのですが、調整をしたほうがよろしいでしょうか。

○委員長（戸匹映二）

議場を使うということですか。

○委員（内藤康弘）

白杵高校については生徒・教員側から御意向もございますので、御意向に沿いたいと考えていますがこれは決定ではございません。

○議長（梅田徳男）

建設産業委員会は、具体的にはどんな内容で実施するのですか。

○委員（内藤康弘）

一昨年、白杵市がユネスコ食文化創造都市に認定されたということで、現在、いろいろな活動を行っています。その活動の中で、白杵高校ユネスコ部も山形県鶴岡市にも一緒に行っています。今後どういう活動を一緒にできるかそういう部分も含めて、若い発想力を参考にしたいと考えています。今後、食文化創造都市の活動としてトルコにも行きたいなというような御要望もあるようです。そういうところも含めてですね、御意見を拝聴したいというふうに思っています。

○委員長（戸匹映二）

意見交換会については各常任委員会で、しっかりと進めていただいておりますので引き続きよろしくお願ひしたいと思います。

それでは、(3)広報機能の充実についてです。事務局の説明をお願いします。

◎書記（足立卓也）

（ 配付資料に基づき説明 ）

○委員長（戸匹映二）

今説明がありました、現状の議会だよりは見開き1ページという形となっています。これを現状のままいくのか、もう1ページ使いたいという御意見もあろうかと思ひます。そこについて御意見をお伺ひしたいと思います。

○委員（川辺 隆）

そもそもこの議論の発端となったのは、もともと白杵市も市報とは別に議会だよりがありました。その後、市報での掲載が始まりました。ですが、紙面に限りがあるということで、本委員会において、情報発信の場として新しい情報媒体を載せていこうという議論をしているので、現状では、紙面が足りないで他の記事を削って内容を薄くして載せるしか出来ないという議論であるならば、もともと我々が目指す情報発信から少し欠けてくる方向になっていると思ひます。ですから、ホームページを生かしていくことについて、私は大変賛成で、議長も早急に取り組みたいということであれば6月又は9月定例会からホームページの改革はできると思ひます。しかしながら、この市報というものがホームページを利用しない方、また、ホームページに関わりのない方々も含めて、御覧になれる唯一の媒体であるならば、1ページ又は2ページ追加するという議論は、委員長、議長及び執行部で関係機関と調整を行っていただきたいです。

○委員（大塚州章）

私も川辺委員に賛成です。現状、年4回で予算を取って業者と契約していると思ひます。そのような中ですが、市報に毎月1ページはとって、ずっと議会が動いていることを示すことも議会の活性化の一つということになるのかなと考えています。そして、それを、さらに見開き2ページ確保して、委員会の活動もそこに載せるとかということも、予算を取ることができれば、頑張っていたいただけたらなと思ひます。

○委員長（戸匹映二）

皆様に考えていただきたいのが、仮に毎月1ページ確保することが可能になった場合、内容を誰がどう構成して載せるのか、それを全部事務局に任せるというのも難しい部分があるのかなと思います。いわゆる議会だより等の広報誌をつくっている議会は、広報委員会といった組織をつくっているところが多いのですが、議員がどこまでやるかというところになります。その辺りの御意見もお伺いしたいと思います

○委員（内藤康弘）

月に1回となりますと、記事があるのかなと思っています。年4回というのは適当な回数かと思っています。今議会ではこういうことがあったという情報を見開き1ページを1.5ページにしていれば良いのかなと思います。

◎書記（足立卓也）

現状の見開き1ページの年4回以外にも、市報の中の一コマをいただくといった形で載せることは、できるのかなというふうには考えています。ただし、その際は執行部と要相談にはなると思います。

○委員（大塚州章）

先ほどは例えの話をしたので、まずは、年4回の市報の内容を充実させるということから、足を踏み込んで、そこで充実してきたら、もうちょっと増やすというように段階的にやればいかなと思います。

○委員長（戸匹映二）

例えば、各委員会で意見交換会を行ったので、その内容をできるだけ早く市報に載せたいということであれば、一つの委員会だけでも枠をあけていただいて、すぐに載せるということは交渉次第では可能ということですよ。当然、執行部との調整が必要になってくると思っています。スペースを空けてこの記事を出して欲しいという依頼は何月であろうと、議会だよりの4回以外で開いた月に出すというのは可能ということです。

○委員（川辺 隆）

その議論をするのであれば、内藤議員がおっしゃったように見開き1.5ページに追加の方向で調整をまず行っていただきたいと思います。現在、我々委員会の議論の内容も載せられていません。議会内ではいろんな表彰対象者もいたり、それぞれいろいろな活動もあり、各委員会で部会も開いていますが、そういう情報は載っていません。また、我々は調査委員会を立ち上げていますがそのことも御報告できていません。議会は何をやっているのだという御指摘は全て我々の情報発信力がないからです。そうであるならば、まずはホームページに載せていただいて、市報については、大塚議員もおっしゃるとおり、これから載せる方向・増やす方向で継続して議論を始めたい。これ予算的には議会だよりを新たに作成したら膨大な予算かかります。それよりも、年4回を見開き1.5ページに増やすという議論を私はしていただきたいと思います。

◎局長（林 昌英）

今の紙面を増やすという話ですけれども、当然執行部と予算の関係もありますし、紙面の関係も今年度は決まっていますので、交渉していくことになります。1ページ増やしたとして、先ほど少し出しましたがその紙面の枠をとるということは、当然ですが、その中に議会の活動を入れていかないといけません。入れるだけの内容が定例会のときにない場合に、その内容をどうするのかというところをきちんと決めていかないといけません。今、市報担当の職員が作っていますが、議案が少ないときに、紙面の枠を埋めるのがなかなか難しかったりします。現在は、工夫して埋めています。1ページ増えるということなのでその辺の紙面の枠をどういった形の内容で埋めていくのかというのは議論していただきたいなと思っております。

○委員（匹田久美子）

充実した内容載せるのはもちろんとても大切なことですが、見やすさや気軽に見ることができる親しみやすさみたいなものはとても大切だと思うので、写真等があれば、議会がより身近に感じられるような紙面の工夫がもう少しできるかと思っています。そういうところもよろしくお願いします。

○委員長（戸匹映二）

そういうことも含めまして年4回の市報の議会だよりの内容の3ページを具体的に誰がどう協議して決めるのかというところを各委員長が決めるのか、この特別委員会は期間が継続できる訳ではないので、継続的にどうやっていくのかというところを協議する必要がありますと思います。

○委員（大塚州章）

議会だよりを1.5倍にした内容という話になれば、内容については先駆けとして本委員会でベースをつくって、事務局と協議しながらやれば良いのではないかと思います。

○委員長（戸匹映二）

この特別委員会で基本的なベースはつくるという形で、最初はそういう形で、その辺をまた、案を皆様で持ち寄っていただいて、その後はその案を持って執行部と交渉という形になるかと思っています。

○委員（内藤康弘）

事務局にお尋ねします。議会だよりはどなたが主体的にやっているのですか。

◎書記（足立卓也）

議会だよりについては大井が担当しています。

○委員（内藤康弘）

議会だよりの作成はどうでしょうか。

◎主査（大井智香子）

期間が決められていまして、大体、定例会の閉会までに期限があるのですけれども、議会は、少し延ばしていただいています。定例会の閉会后にすぐにつくり始めるので、時間的に

も厳しいところがあるのかなと思っています。なので、こういうふうに掲載してほしいといった案があれば早めに言ってもらえればこちらも組立てはできるのかなと思っています。

○委員（内藤康弘）

仮に、見開き1.5ページになれば、構成の仕方とかはどうですか。負担が倍増しますか。

◎主査（大井智香子）

12月や3月の定例会になれば議案数も多いので、逆に少し足りないかなと思うことはあるのですが6月は議案数も少ないので、空いたスペースを埋めるのが大変というところはあります。

○委員（内藤康弘）

作成するのは相当な負担ですか。

◎主査（大井智香子）

今は定型的にここにはめ込むっていうのが出来ているので、そこにはめ込んでつくっている状態なのですが、新たに増やして作り直すとなれば構成から考えないといけないので、そこは皆さんにも御協力いただいたきながら、つくっていくことになるかと思います。

○委員長（戸匹映二）

仮に見開き1.5ページになった場合は、ここでも検討して考えていくという方向でよろしいですかね。次回いろんな案を聞かせていただきたいと思いますのでよろしく願いしたいと思います。

◎局長（林 昌英）

今の市報の枠については、すぐには対応出来ないと思います。ただ、議案の賛否の関係は先ほど出ましたけども、それについては、案でお示ししている賛否が分かれた部分だけでも、6月の定例会分から出していったほうがいいのかなどは考えていますがその点はどのように。

○委員長（戸匹映二）

6月定例会分から掲載するということは皆様いかがですか。

○委員（川辺 隆）

以前、議会基本条例検討特別委員会の際に、大分市議会の掲載内容を全員で確認しました。大分市議会のような感じで掲載するとしたら、この6月定例会の内容の一部分が削られるようになるのですか。

◎局長（林 昌英）

確かに今言うように、削る部分が発生することになるかと思います。

○委員長（戸匹映二）

6月定例会分の最終的な構成はいつ考えるのですか。事務局として、実際にそれは可能と考えますか。

◎主査（大井智香子）

恐らく可能と思います。

◎書記（足立卓也）

別紙3で添付しているのが、昨年度の6月定例会の内容になります。恐らく今年度もこちらと変わらないような内容にはなるのかなと思います。やはり一般質問や議決結果については、載せるべきかと考えております。削るとなると議員ゼミナールの開催といったものを削るのかなあと考えています。例えば議員ゼミナールの開催については翌月号に載せるといった対応はできるのかと考えています。

○委員（川辺 隆）

その構成についてはお任せして良いですが1点、次の議会の予定を載せるのは少し考えて載せていただいたほうが良いと思います。議会運営委員会の最終決定を待たずに、既にホームページや市報に載っているからということで、議会もその日程の変更ができないという意見がここ半年の間に三、四回聞いたので、議会の日程予定は逆に削ってほしいです。正式決定の後に上げていただけるのなら本当に大変助かるのですが、正式決定を前にして載せているから変えられないと言われたらもう我々予定が立ちません。ですから、その点だけは御意見として聞いていただければと思います。

○委員長（戸匹映二）

定例会の予定を載せているということですが、これは早めに市民にお知らせするという目的で載せているということですかね。

◎局長（林 昌英）

例えば、6月定例会の内容の市報は、8月の市報に載りますので、9月定例会の日程の内容について、市民に前月にお知らせできるという形になっています。例えば9月の市報が、市民の元に届くのが9月過ぎてというところもあります。9月定例会の議会日程をお知らせするのであれば8月号の市報に、掲載しないと市民の方は分からないことになります。

○委員（川辺 隆）

大変ご貴重な御意見が事務局からありましたが、先般こういうことがありました。予定を載せているのに市民からは違う声が指摘されました。これは何人かの議員はその場において議会運営委員会でも聞いていましたけども、「予定に載っているではないか。」「なぜ議会日程を勝手に変えるのか。」という声を3月定例会で受けたばかりです。この予定の公表の仕方は、この掲載事項に日程の変更がありますとか大きめに書いていただかないと。あくまで予定の決定は直近の議会運営委員会の議会日程の決議です。3月定例会で一般市民から御指摘を受けたばかりなので、予定は掲載するべきではないと思います。

○委員（大塚州章）

議員ゼミや予定はQRコードにするとスペースがとれるのではないかとこのものもありますし、QRコードを読んだときに、議会日程は変更がある場合がありますと記載しておくことも可能かと思えます。

○委員長（戸匹映二）

前提として、川辺議員が言われましたように予定を載せたほうが良いのか載せないほう

が良いのかということですが、基本的には載せるけれども、そこをきちっと分かるようにしてほしいということですね、

◎局長（林 昌英）

一応、変更があるというのは書いておりますのでこれをもうちょっと大きく書きます。

○委員長（戸匹映二）

そこは分かりやすく、すぐに分かるように修正をしていくということではしていきたいと思えます。

その他議会活動等について随時市報やホームページ掲載というのは、先ほど事務局が言いましたように、合間の月に載せていくということも可能ということですけど、この辺は、もしそういったことが可能であれば、載せていくのがいいのかどうか、その辺は皆さん御意見いかがですか。年4回以外にいろんな議会報告を載せていく必要があるということです。1ページ確保するとなると、なかなか紙面を埋めるのが大変になってきますので当面は記事のある分だけ載せていくという形です。

○委員（川辺 隆）

そもそもこの議論が始まったときに意見として言いましたが、年4回の議会だよりの掲載を市民に向けた情報発信の媒体を増やそうというのが目的なので、まずは、紙面を1.5倍に増やしてくださいという意見を私は言いました。それに対する御努力はしてください。それをやる過程の中で必要であるならば、掲載できない記事は別のところに掲載するというやり方は良いと思いますが、そもそも我々の情報発信力が足りないです。そもそも論ですから、まず、議会だよりは1.5倍に増やす議論は必ず行っていただきたいと私は思います。我々はそれ以上の活動をしていますし、議長や各常任委員長の言葉や思いを載せるのであれば我々はその記事を書くことに関して何にも苦勞をしませんので、まずは1.5倍を何とかして実現していただきたいことを委員長にお願い申し上げます。

○委員長（戸匹映二）

1.5倍に増やすことを目指し、それから先は、載せる必要があるものは載せていくという方向でよろしいですかね。

（ 「異議なし」の声 ）

次の③議場を活用した広報活動や学校訪問等の実施内容についてですが、これは、意見交換会等でも、議場を使うというお話が出ていましたが、そういった議場を使うということも検討してやっていくことについて皆さん御意見はいかがですか。

○委員（匹田久美子）

先ほど、教育民生委員会の報告があったとおりなのですが、教育民生委員会で考えているのは、具体的には、小学6年生から公民の授業が始まるので、そこに絡めてもらって、主権者教育、若年者の投票率が低いとか、市政や政治への関心が低いっていうのはもうずっと言われていることですけども、市議会はどんなところで、議員は何をしているのかというようなことを、子ども向けに分かりやすく説明し、実際に議場で発言するような体験をしてもらう

ことで、市議会の役割とか、市政が自分たちの暮らしとどう関わっているのかということを考えてもらったり、自分の立場を分かりやすく言葉で主張したり、相手の意見を聞くという討議の方法を体感してもらったりするような工夫をしたいと考えています。細かいところはこれからの話合いで決めていきます。そのときにやっぱり、議場の雰囲気を感じてもらいたいです。行ったことがあるとか知っているとかいうのはとても大切なことだと思うので、白杵地域なら来ていただきたいですし、遠いところは出張出前授業ということも考えていかないといけないかなと思っています。

○委員長（戸匹映二）

基本的には議場も積極的に活用していこうという、そういう方向性はいいということでしょうか。

（ 「異議なし」の声 ）

○委員（内藤康弘）

以前ですね、子ども市議会があったと聞いております。行わなくなった経緯が分かればお願いしたいのですが。

◎局長（林 昌英）

子ども市議会は議会が主体でやっていたわけではなく、教育委員会が主体となっていた事業でした。議会は特に絡んでいません。

○委員（内藤康弘）

ということは、子供たちが議場を経験する部分において、今まで所管であった教育委員会が、これはあまり意味がないと判断をしたのか分かりませんが、できれば継続できるような内容で行っていただきたいなというふうに思います。

○委員（川辺 隆）

子ども市議会に関しては、教育委員会に御意見を聞かせていただきました。やめるきっかけになったのはあくまでコロナです。コロナで一つの場に、子どもたちを集めることが難しいというのが一つのきっかけでなくなりましたが、実は執行部の負担がものすごく大きいというご意見もありました。子どもとはいえ、市議会に議長を据え、執行部にも市長と副市長、各所管の課長が並んで行う意見の場が、テレビ放送されたりすることもあり、その答弁に関しては、答弁書検討委員会を開いて、そこで子どもたちの意見に関しても真摯に受け止める答弁をしていました。そういったことから膨大な負担があったという意見を聞きました。子どもや保護者にとっては有意義な経験の場になっておりますので、子ども市議会に関しては私も復活するという議論が始まれば賛成です。

議場を活用した広報活動の面について、この白杵市議会では議場は討論の場では使っておりません。ここで、大分県議会議員が行った、議場コンサートを開くといった活動ができれば市民に触れ合いの場として提供できると思います。そのような議論ができるのであればしていただきたいです。

○委員長（戸匹映二）

議場を広報活動に使うということを今まで白杵市議会はしてこなかったということで、積極的にこれから行っていくのかどうか、その辺の御意見を聞かせていただきたいと思えます。

○委員（大塚州章）

議場というのは、私たちが子どもの頃には行ったことも見たこともないところでした。今はこうして、情報公開することによって、議場を近くで見ることができ、議員さんってこういう人がいるんだということ子どもころから分かっていると将来的に、議員をやってみて、白杵のために頑張ろうかというようなことにもつなげていくって一つの目標があると思えます。そういう意味では、先ほど出たイベントでもいいですし、見学でもいいですし、そういうことを促すことを今後やっていただけたらなというふうに思えます。目的として、今後の議員の成り手、白杵を考える子どもたちをつくっていただきたいというのがあるかなと思えます。

○委員長（戸匹映二）

議場は、積極的に活用していきたいということでしょうから、また内容を皆さん御検討していただければと思えますのでよろしくをお願いします。

ここで休憩します。

午前11時27分 休憩

午前11時32分 再開

○委員長（戸匹映二）

再開します。(4) 議員研修について事務局説明をお願いします。

◎書記（足立卓也）

（ 配付資料に基づき説明 ）

○委員長（戸匹映二）

それでは①研修要領について、白杵市議会議員研修要領（案）の内容に関して、この内容で進めていいかどうかその辺の御意見をお伺いしたいと思います。

○委員（川辺 隆）

第7条で「視察研修に参加した議員は、速やかに行政視察報告書を議長に提出しなければならない。」と規定していますが、この視察研修とは常任委員会の視察も含むのでしょうか。なぜかという、議長に報告が上がるということは、議長の責任になると思えます。全部議長が責任とってくれるなら良いですが、そのような書き方で良いのかということ、議員の中には、委員長に提出のほうが良いのではないかという意見があります。我々委員は、この研修要領（案）を今初めて見えています。これで意見をと言われても、多分皆さん言えない

と思います。

○議長（梅田徳男）

議員研修そのものが議会活動ということで、その報告は議長ということになっているか
と思います。

○委員（大塚州章）

そこは一度事務局に調べてもらい、議長でないといけない理由があれば聞かせていただ
くことで良いのではないのでしょうか。

◎局長（林 昌英）

委員長が取りまとめて議長に提出という運用方法もあります。会議規則では委員の派遣
が規定されています。その際には議長に提出しないといけないようになっております。派遣
について議決をもらっていますので議会の長である議長宛てにということで要領（案）は作
成しています。

○委員長（戸匹映二）

また検討をする部分もありますので1度しっかり読んでいただくようお願いします。

○委員（武生博明）

委員長が議会に報告するから、委員長がまとめて議長に報告するような形をとっていく
べきではないかと思います。

◎書記（足立卓也）

いただいた御意見をもとに運用方法を整理して、次回以降お示しできるようにしたいと
思います。

○委員（匹田久美子）

議員ゼミナールについてなのですが、6月定例会前に人権研修が行われていますが部落
差別解消がテーマであることが多いのですが、白杵市は認知症条例があるので、高齢者の人
権についてや、手話言語条例が新しく出来たので、障害者の人権についてとか、パートナ
シップ宣誓制度も持っているので、性的マイノリティーの人権についてとか、最近盛んに言
われています、男女のジェンダーの差別問題についてとか、そういう幅広い人権研修も扱っ
ていただきたいです。事務局に要望させていただきたいと思います。

○委員（川辺 隆）

大変触れにくい話を匹田委員がしてくれたとっております。部落解放同盟同和の問題
を毎年我々はこの問題を1時間かけてやっています。確かに簡単な問題ではないと思いま
す。しかしながら、ここに人権をうたうのであれば、今言われたような新しい意見を毎年入
れたほうが良いと思っていました。それならば、部落解消に関する問題を30分して、残り
の30分を障害者や高齢者の問題等含めた人権に複合するということを今回から出来ない
のでしょうか。来年でも良いのですが。

○委員長（戸匹映二）

そうですね、何かいろんな角度から人権の問題というのは、6月にできるかどうかは調整

が必要ですが、そういうのも含めてやっていくということは、可能ではないかなというふうには考えます。

議員ゼミナールの内容に関しては、研修の講師等は議長がその都度依頼するとなっておりますので、これは議長に提案をしていくという方向で良いのですかね。

◎局長（林 昌英）

ゼミナールの研修の件につきましてはこれまでも議長から各講師にお願いをさせていただいております。なので、そういった御意見があれば、また議長や事務局のほうに、教えていただければと思っております。

○委員長（戸匹映二）

そういった御意見は事務局を通じて議長に報告を上げていくという形ですね。これは、別添資料の白杵市議会議員研修内容に「(4) その他の研修」という項目の中に議員ゼミナールについて規定されています。「3. 研修内容の見直し」についての項目では「本研修内容については、必要に応じて、議長が議会運営委員会に諮って、見直すものとする。」と規定されています。基本的に白杵市議会議員研修内容に関しては、こういう形で引き続きやっていくということで、この内容についても、一度見ていただきまして、また御意見をいただきたいと思えます。議員研修については、そういう形でもう一度ご確認いただき、次回また御意見を聞かせていただきたいと思えます。

最後に(5) その他（議会改革・議会活性化）について、議会のICTの推進に関してですが、事務局から御説明をお願いします。

◎書記（足立卓也）

（ 配付資料に基づき説明 ）

○委員長（戸匹映二）

この議会のICTの推進につきまして、積極的に進めるべきかどうかその点について御意見をお伺いしたいと思います。

○委員（川辺 隆）

今御説明があったとおり、この白杵市議会は大変遅れております。他市議会が導入しているから導入するのではなく、いかに情報発信力のスピードを高めるのか、そして紙媒体の資源を無駄にしない活動を行うのか、我々はそのことを新しい議長になり、先般の研修会でタブレットを使用させていただきました。各議員はいろいろと御意見はありましたが、早急に我々白杵市議会18人で、補正予算の要求をして、直ちにタブレットの導入を行い、ICT化の推進を行うべきと思えます。

○委員長（戸匹映二）

議会としては、積極的にこれを推進していくということで良いですか。では、実際機器が入る云々の前に、この運用・使用方法について、タブレットが入ったことによって、使い方のルールも必要になってくるかもしれません。その辺のところ、それから議会運営に関わることにもなってきますので、そういった詳細の部分をどこで、検討して決めていくのか御意

見を聞かせていただきたい。

○委員（川辺 隆）

議会内での活用・使用方法といった議会でのルールはあくまで議会運営員会で定めております。この点については議運を中心に取り組むべきだと思います。

9月議会に補正予算の請求をするぐらいの勢いでやりましょう。

○委員長（戸匹映二）

今の議運でという御意見が出ました。ほかに皆さん御意見ないですか。

このICTの運用・推進に関しては議運が、その運用の検討、いろんなルールづくりから、進めていくという方向性でよろしいですか。

○委員（内藤康弘）

私も賛成です。いろんな運用や取り決めに関しては、議運でいろいろと検討していかねばならないなと思っています。タブレットについては、前回、3月に1回試しました。なので、6月定例会でも、機会があるごとに、皆さんに慣れていただくことが必要かなというふうに思っています。なので、6月定例会で使用できることがありましたらぜひ使っていただきたいというふうに思いますので、御協力のほどよろしくお願いします。

○委員長（戸匹映二）

議会のICTの推進に関する取組については、議会運営委員会で行っていくということで決めさせていただきたいと思います。

議会改革の問題ですので、全議員に内容の周知をしないとイケません。本特別委員会としての意向はこうであるということをして全議員に周知をし、全議員が同じ思いでスタートしていただかないとイケません。しっかりと説明をして、了解をいただくという形をとっていきたいと思います。途中経過にはなるとは思いますが、6月定例会中に一度、全員協議会で中間報告の説明をさせていただこうかなと思っておりませんがその点はよろしいでしょうか。

（ 「はい」 の声 ）

○委員（川辺 隆）

今日話し合ったことの全ての窓口が、議会事務局になると思います。委員会の活動、広報活動、そしてタブレットのこともそうです。そうなった場合に、予算がないとやるにやれないと思います。タブレットの購入は、補正予算でやるとは思いますが、その他の活動費ということで、これも執行部に対して、議会運営費の活性化予算として、新たに予算を積み上げて、予算要求を議長、副議長そして事務局から考えていったほうが良いと思います。その辺はよろしく願いいたします。まず予算をつくりましょう。

○委員長（戸匹映二）

実際にICTを進める上では、当然機器を購入しなければなりませんので、予算の確保をしていただかないとイケません。その辺は具体的にどのくらいの費用がかかるのかとか、具体的にたたき台をつくっていかないといけないと思います。その点は今後、事務局と相談しながらやっていきたいと思っています。

ほかに、何か全体を通して何か御意見ありますか。

○議長（梅田徳男）

いろんな御審議をいただいてありがとうございます。皆さんには、決定していく中で、やっていただきたいと思うのは、日程、今後の計画、各種委員会の活動等の「見える化」を図ってください。今こういう状態でどこまでできていて、これから何をしていくということが、誰もが分かるようなことをやっていただきたいと思います。よろしくお願いします。

○委員長（戸匹映二）

本日協議した内容を整理しないと次の議論に進めないと思います。事務局が本日の委員会の内容をまとめて、それを委員に配付して内容を確認し、協議しながら最終的に全議員に配布できるような資料につくり上げていきたいと思います。

全議員に、全協等で説明する前に、本日協議した内容は、事前にお知らせするようにさせていただきますので、その中にはまだ、検討事項もまだあると思います。次回の特別委員会で、引き続き検討していきたいというふうに思っております。

それでは、以上で第5回の議会活性化検討特別委員会を終わりたいと思います。大変ありがとうございました、お疲れ様でした。

午前11時57分 閉会

白杵市議会委員会条例第30条第1項の規定により、ここに記録を作成する。

令和5年5月24日

議会活性化検討特別委員会
委員長 戸匹 映二